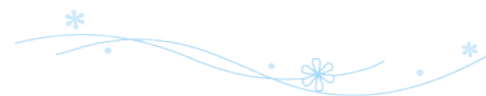


# 川越市に足りない子育て支援はコレ！



## ① 母乳育児支援

川越市では母乳育児に関するニーズは把握していません。ではなぜ母乳育児支援なのか？厚生労働省では、平成17年と27年に授乳に関する調査を行っており、その結果、**妊娠中の9割を超える方が、母乳で育てたいと答えています。**

鳥取県で実施された平成26年12月の産前・産後ケアに関するアンケート調査によると、**産後、育児に関して困ったことや辛かったことは何かという問いに、授乳のことと答えた方が最も多く、その内90%の方は母乳のことと答えています。**同様に、**最も困ったこと、辛かったことも授乳のことが最も多く、**お産から～産後2か月までに受診・利用したものはとの設問では、1か月健診や予防接種の次に母乳外来とあり、多くの方が母乳育児支援を必要としている様子が伺えます。

一方、**川越市では相談があればお答えするという以外に、特段の支援は行われてきませんでした。**母乳のメリットや、飲ませ方、飲んでくれない、飲んでいない量が分からない、母乳が出ない（出にくい）自分の食事や薬について等、代表的な悩みについてはある程度、事前の知識や簡単なアドバイスで改善することも少なくありません。核家族化が進み、こうしたアドバイスをしてくれる人が身近にいないからこそ行政の支援が必要なのです。また、医療機関でも必ずしも母乳育児支援に力を入れている所ばかりではありません。**医療機関との連携や、公共の場での授乳環境の整備**といった部分も改善が必要と提言し、その必要性については市も認めました。



## ② 家庭訪問型子育て支援事業・産後ケア事業の拡充

平成29年4月から川越市でも家庭訪問型の子育て支援が始まりました。研修を受けた子育て経験者が未就学児のいる家庭を訪問し、保護者に寄り添い話し相手になったり、育児家事や外出を一緒にしたりしながら、孤独感や育児不安の解消、子育ての楽しさを実感出来るようにサポートするホームスタートは、「子育て」が「孤育て」にならないようにできた仕組みですが、川越市では対象を未就学児ではなく、1歳未満の子どもがいる保護者に限定して始めました。

心身のケアや、育児サポートを実施する産後ケア事業は、主に、医療機関等に数日宿泊する宿泊型、日帰りのデイサービス型、自宅に来てもらう訪問型があり、川越市では平成28年度から、家族等から十分な家事や育児の援助が受けられない市民、体調不良や育児不安等がある市民を対象に、宿泊型の産後ケアが始まりました。未だ周知が行き届かないせいか、利用者は数人に留まり、鳥取県のアンケートでも希望者が多かったデイサービス型等も実施していません。

どちらの事業も、川越市の子育て支援の中で支援体制が薄いと感じられる部分であり、拡充が必要と提言しましたが、今後の検討していきたいとの答弁に留まりました。



## ③ 全妊婦面談

現在川越市では、総合保健センターで妊娠届を受け付ける際には、母子保健コーディネーターとの面談が行われておりますが、ここでの受け付けは全体の6%程にすぎず、市役所の市民課や地域市民センターでの受け付け時に面談は行われていません。妊娠届時点での妊婦の状況把握は、その後支援を必要とする方を市が早期に把握できることで、望まない妊娠やDV、未婚の妊娠など問題を抱えた妊婦への早期対応により、その後問題解決や問題の重度化を防ぐことにもつながります。それ以外にも、産後の不安解消や早期の情報提供は有益な子育て支援となります。

今回は、昭和58年から全妊婦に面談を行っている松戸市を例に、川越市での実施を提言しましたが、まずは、実施への課題の整理に努めたいとの答弁に留まりました。



## ④ 関係各課の連携

川越市では、子育て支援施策を実施する部署が、主に子ども未来部と保健医療部に分かれており、この